

平成 30 年度東部地区まちづくりセンター活動報告

“まちづくり”とは何なのか。それはその地域に住む人々が、その次代の中で、住みやすいように変えていく。それがまちづくりではないかと思います。

東部地区は、国道 113 号線が横断し、農業、東山工業団地そして、“めざみの里観光物産館”があり、産業経済に観光と、人々の往来が非常に多い地域です。その中で取り組まれた H 3 0 年度の「まちづくり」をご紹介します。

○その 1 「添川温泉ふるさと祭り」(8 月 14 日)(集落支援員が担当)



30 年続いた、地域の人作り・参加し・楽しむお祭りです。マンネリ化してる～と言いながらも楽しんでます。しかし、8 月 14 日というお盆の真っ盛りの日程と、せっかくの休みが自由に使えないということから、日程は変更できないかなど、いろいろ意見が出てきているわけです。

「お祭り」とは言いながら、神仏の霊や御霊をおまつりするわけでもなく、昭和から平成に代わるときに温泉掘削に成功し、その源泉を「お祀りする」という形で神事を執り行い現在に至っています。

そこで、この添川温泉ふるさと祭りについてみんなで考えてみようというのがその 4 のワークショップです。

○その 2 集落支援アンケート調査の実施

集落支援員のアンケート調査をさせていただきました。調査項目は大変多義にわたりましたが、回収率 88% とたくさんの方に回答していただきました。地域の未来について、少子高齢化による地域の維持管理の心配、通院、買い物

についてなど様々なご意見をいただきました。

○その3 集落ワークショップの参加

社会福祉協議会主催のこのワークショップは、老人世帯の暮らしをテーマに、いろんな課題を出し合い、解決に向かって取り組むものです。とかく年金と病気の話が中心となる老人どうしの会話ですが、「ふだんの 暮らしの しあわせ」について話し合いました。



○その4 「添川温泉ふるさと祭りのワークショップ」開催



ファシリテーターに、“キラリよしじまネットワーク”の高橋さんをお招きし、お祭りの目的、何をしたいのかなど、まちづくり委員会+（プラス）のメンバーの方に分析していただきました。

その結果については3月14日の実行委員会に報告させていただく予定です。

